

教育実践 デジタルライブラリー の構築と活用に向けて

「大学院教育課程開発のためのシステム開発」
京都教育大学 大阪教育大学 奈良教育大学



このリーフレットは、高度専門職業人養成を目指す教員養成において、今後さらに重要な位置づけとなる大学院教育、とりわけ博士課程における教師教育の開発を対象として、京都教育大学、大阪教育大学、奈良教育大学、の三教育大学で実施したプロジェクト「大学院教育課程開発のためのシステム開発」の一環である「教育実践デジタルライブラリー」で、平成 25 年度からの 5 年間に取り組んだ内容をまとめたものです。この「教育実践デジタルライブラリー」は、教員養成における「学び続ける教員」の育成に資するものとして、教育大学の博士課程でも活用が期待できる実践的授業の教材として、附属学校との連携協力のもと、研究会および校内研の授業と検討会を中心に録画してデジタル教材を作成しました。

これまで研究授業の録画教材は一般的に活用されてきたものの、研究授業後の検討会の録画は少ないと考えられます。一つの授業を通して教員が議論する内容は、教職を学ぶ学生にとって重要な学びの教材となります。デジタル教材は、デジタルデータならではの機能を生かし、授業研究会に参加することの仮想体験として活用が可能となります。ここに示す本プロジェクトのこれまでの取り組みの紹介は、今後の三教育大学における実質的な活用に向けたステップです。

平成 30 年 3 月 プロジェクト代表 富田福代（大阪教育大学）

教員養成における「学び続ける教員」の育成につながり、教育大学の博士課程でも活用が期待できる実践的授業の教材として、附属学校との連携協力のもと、研究会および校内研の授業と検討会を中心に録画を行い、映像を収集しました。これまで研究授業の録画教材は一般的に活用されてきたものの、研究授業後の検討会の録画は少ないと考えられます。一つの授業を通して教員が議論する内容は、教職を学ぶ学生にとって重要な学びの教材となります。デジタル教材は授業研究会に参加することの仮想体験として活用が可能となり、また停止や繰り返しといったデジタルデータならではの機能は、デジタル教材として大学授業や附属学校園における研修で有効な利用が期待されます。

収集したデジタルコンテンツは、学内SNS（スマートフォリオ）にデジタルデータとして保存しました。主として大学授業において実践的教材として活用することを目的としているため、デジタルコンテンツの充実とともに、具体的な活用方法の検討が重要となります。

また、京都教育大学および奈良教育大学の参画を得て、それぞれに異なる環境において可能な形での取り組みの検討を進めています。

【これまでの活動】

・録画内容の計画と録画データの整理

録画計画の作成
大学の授業での活用開発の模索

附属学校校内授業研究を取り入れたデジタルライブラリーの録画データを収録

・録画協力体制整備

附属学校へ協力依頼
録画実施学生チームの編成と指導
複数チーム化と異学年編成による継続的体制の整備

・大学の授業や学生の自主学習教材としての活用

大学の授業での活用を検討
活用の視点で録画方法の問題点の改善

・三大学としての協働と共有

教育実践デジタルライブラリーの取り組みの共通理解
三教育大学担当者会議
京都教育大学と奈良教育大学での可能な方法と内容の検討と実施

目的と活動



プロカメラマンを招いた、学生スタッフの撮影研修

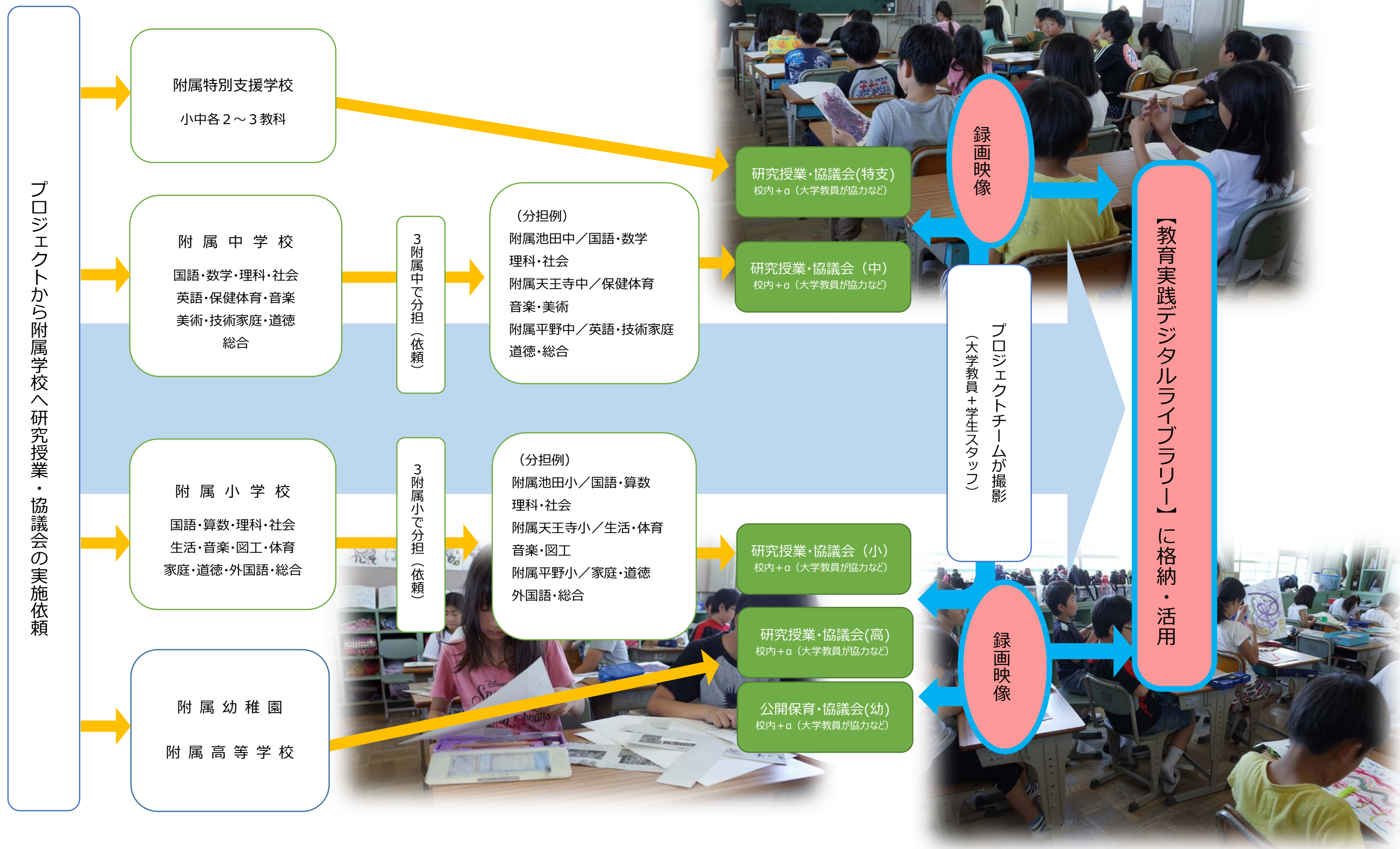
収集映像

中学校 美術（天王寺）
英語× 3（池田）
体育× 2（池田）
音楽（池田）
国語（池田）
理科（池田）

小学校 学校図書館教育（池田）
理科（池田）
安全× 4（池田）
国語× 4（池田）
社会× 3（池田）
理科（池田）
外国語（池田）
体育（池田）
算数× 3（池田）
音楽（平野）
保健（池田）
算数（天王寺）
図画工作（天王寺）



教育実践デジタルライブラリーの構築と活用イメージ



教育実践デジタルライブラリーの活用事例

京都教育大学

湯川夏子【教職実践演習】

授業ビデオは、全体像と教師目線、と2台のカメラで撮影した画像を45分に編集したものを視聴しました。ビデオから得られる情報量は多く、視聴後は活発な議論がなされました。特に、班学習の議論を効果的にすすめる教師の手立てや言葉かけが十分に読み取れ、「先生視点のビデオがあったのがすごくよかった」という意見が複数みられました。議論後には、研究会における意見をいくつか視聴し、自分たちでは気づかなかった教科内容的な点や、小中高の連携の視点などが語られており、大変有効でした。

今後大学院における活用を考えると、様々な教育理論に基づき、授業の解析が可能です。また研究会の映像を含めることで、より高度な学びの機会となろうかと思えます。ビデオ編集の手間や時間も課題でしたが、授業者が自らの授業を撮影・編集を行うことは振り返りに有効であるとともに、ICTの活用能力の育成につながるといえます。また、そのビデオを活用した授業を学部生に対して実施することも大学院の授業として想定できます。ビデオライブラリーは生きた教材として様々な可能性を持っているといえます。



大阪教育大学

橋本健一【教職実践演習】



教職実践演習ミニ講座の一部として、附属校および一般校で実施された研究授業・協議会のビデオを見て、授業の技法や流れ、児童・生徒の様子を観察する視点を養い、それらについて建設的に批評するスキルを育成することを目的として、デジタルライブラリーを活用しました。学生は授業観察の基礎的方法の講義を受けた後、授業・協議会の様子を観察しつつ、授業で気になった点や協議会で気になった質問等についてメモを取り、それを基にグループ・全体ディスカッションを行いました。

受講者は、大学での学びの総まとめとして授業観察方法について学べたことへの強い満足感や、異なる視点を持つ学生が1つの授業について意見を交わすことの有意義さを感じていました。このライブラリーが学生に「生きた授業」と「それがどう見られるか」という、普段見ることのできない場面を見る機会を提供して、教職に就いた際の重要な準備の1つとなることは間違いないでしょう。

奈良教育大学

板橋孝幸【教材開発研究】

奈良教育大学では、附属中学校の教育研究会における授業と協議会の様子をビデオ撮影し、大学院修士課程の授業で活用しました。日本教師教育学会のプレイベントとして行われた平成29年度の附属中学校教育研究会は、教育実習生が1時間、附属中学校の教員が1時間連続して授業を実施し、その後に協議会を行う内容でした。大学院修士課程「教材開発研究」では、4コマ分を用いてデジタルライブラリーを活用した授業を展開しました。教育実習生の授業、附属中学校教員の授業、協議会の様子をそれぞれ1コマずつビデオ視聴して議論し、4コマ目にまとめを行いました。成果として、協議会の様子も活用することにより学生の授業理解と議論に深まりがでたこと、授業担当教員のFDとして効果があったこと、附属中学校の活性化にも貢献したことがあげられます。一方、授業でビデオを見る時間が長くなるといった時間的制約、ビデオ撮影方法における限界等、いくつかの課題にも気付くことができました。



博士養成モデルプログラムの共同開発プロジェクト
(大学院教育課程開発のためのシステム開発)
メンバー

富田福代（代表・大阪教育大学 25-29）

井坂行男（大阪教育大学 26-29）＊

石川聡子（大阪教育大学 25-29）＊

加賀田哲也（大阪教育大学 25-29）＊

佐藤賢司（大阪教育大学 25-29）＊

橋本健一（大阪教育大学 26-29）＊

湯川夏子（京都教育大学 25-29）

板橋孝幸（奈良教育大学 28-29）

伊藤敏雄（大阪教育大学 25-26.29）

小野恭靖（大阪教育大学 25-29）

生馬裕子（大阪教育大学 25）

尾崎拓郎（大阪教育大学 25）

＊デジタルライブラリーチーム

今後に向けて

本プロジェクトは平成 29 年度で終了するものの、今後継続が必要とされています。「教育実践デジタルライブラリー」は一定の ICT 環境が求められ、またその運用にも様々な要件を伴います。現在、大学および大学院での授業や学生の活用段階までには、学内 ICT 環境下での活用の条件整備や三教育大学での調整や協議など、技術と運用の両面で検討する課題が残されています。今後は事業の継続と改善を図り、教育活動での活用段階に進めます。